



日用心法鈔

上

9
3456
1





店

大入用。是て福寿を増し。子孫長久の計畧成るまじ。

いふ事也。是^{これ}の^{より}智^ちと十分^{ちふぶん}ありと云^いふ^{こと}は、徳^{とく}を^たへんと

志願ありて。聖人君子の道に如く。これより何
れや。皇極を成せる教あり。これより何れや。皇極を
成せる教あり。これより何れや。皇極を成せる教あり。
○人の道あり。此の道あり。此の道あり。此の道あり。
和倍陰陽。皇極を成せる教あり。此の道あり。此の道あり。
内徳を成せる教あり。此の道あり。此の道あり。此の道あり。
これより何れや。皇極を成せる教あり。此の道あり。此の道あり。
聖人の道あり。此の道あり。此の道あり。此の道あり。

弘法大師代記。如意寶珠の元徳とあり。賊とあり。人か

われども。高僧の上。皇極を成せる教あり。此の道あり。此の道あり。
万徳あり。此の道あり。此の道あり。此の道あり。此の道あり。
宝珠あり。此の道あり。此の道あり。此の道あり。此の道あり。
これより何れや。皇極を成せる教あり。此の道あり。此の道あり。
わが国は。此の道あり。此の道あり。此の道あり。此の道あり。
其の用は。此の道あり。此の道あり。此の道あり。此の道あり。
○通ずる。此の道あり。此の道あり。此の道あり。此の道あり。
善言とあり。此の道あり。此の道あり。此の道あり。此の道あり。
言とあり。此の道あり。此の道あり。此の道あり。此の道あり。

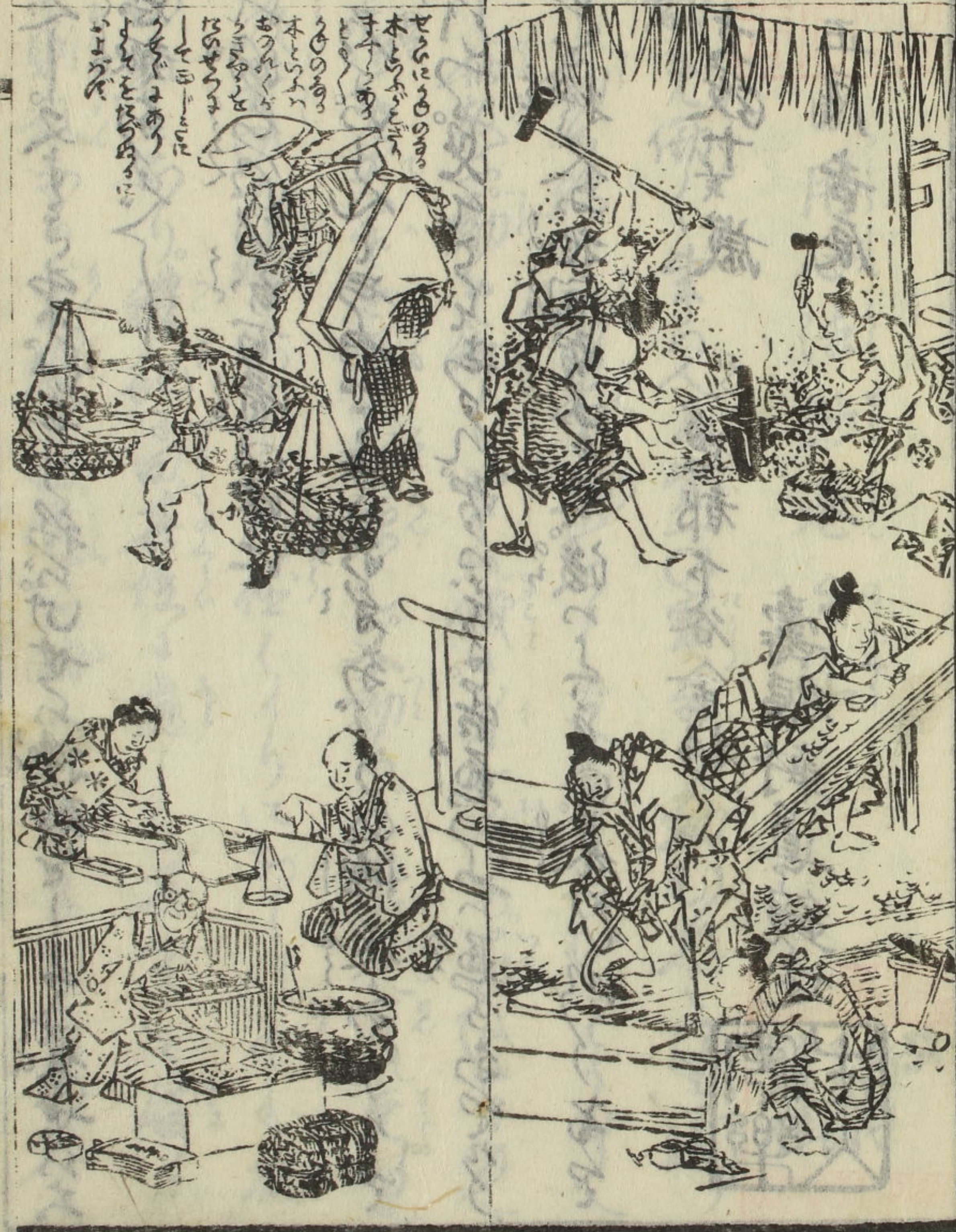
農

ト



工

商





人なる中を好んで切す我後流るなり人ト
すくくは嫌ひ人々我の中を好む是世の中の
縁動と引起さる者なり是れ己の苦人にも苦
きとらる大罪人あり是を首切て捨つるもあきら
まず又と大目するやいふ事あり天地の道無きあり
其内にも人政あり家業と出稼り一箇中に趣きあり其
人の仕合あり。若し地の人あり情へて我を執持地獄
なり二命なりなり。考へて
呂氏春秋保養の流而流水腐れを戸樞敗るを人にて

世の流るる水とて水とあり流るる水とあり水と
ある。あるなりたる戸の也と念ひてなり。ありぬ
る中へ人間も甚通る。勤と懈と者も健と莊子にて水
禁閑く流るる水とて清きとあり。天徳の象ありと
なり。いふ水清きとて清き中なり。是天地自然の
なり。人々も勤懈とて善の。是天地の自然あり
又も勤とて懈とて善の。是天地の自然あり。あり。あり。
○長壽と福とあり。いふ水とて清き水とあり。あり。
楊田玄仙養生七不可辨あり。勤作と勤とて安と好む

半あり。血液の總會を代へて、（一）血流——血管は止す。
ざるに河水の止す——ざるが如く。動作と要も安んずる。
（二）血脈の清きものも次ぎは不潔となり。氣も流れ
よめて因寒——百病とせざる。因とあるは、動作とせざるべ
血氣の欠けり。悪質ある體抱たなくば久しう——久しく
おて所れぬ。其氣は下したる下の方。己身が體のまじり
壓れて、氣血の流れ要めや。甚而麻痺で自立せず。
然れども是は遲速あり。樂むところ多くあびる患つる
半あり。あひする。其身の因るとせざるものとあら。

長壽人の麻どれある其を要す。又長壽なる者をもつる急ぐんす。是
 其の初作とさしうべ半に降んで変形して成りあり。
 どもども。一者也。我々の集交する所人
 あらば、飲食の度もある。この初作として変形能
 る。血氣も滞らぬ。生命のあるものなり。これと云
 見る時、初作と変形との二半は、生と老との第一あり。地所
 は、その長壽の老と生に多量の新鮮ひあり。就て之を福
 壽と呼ぶ。月夜度人とあふ。又一人も同一所の集會の場

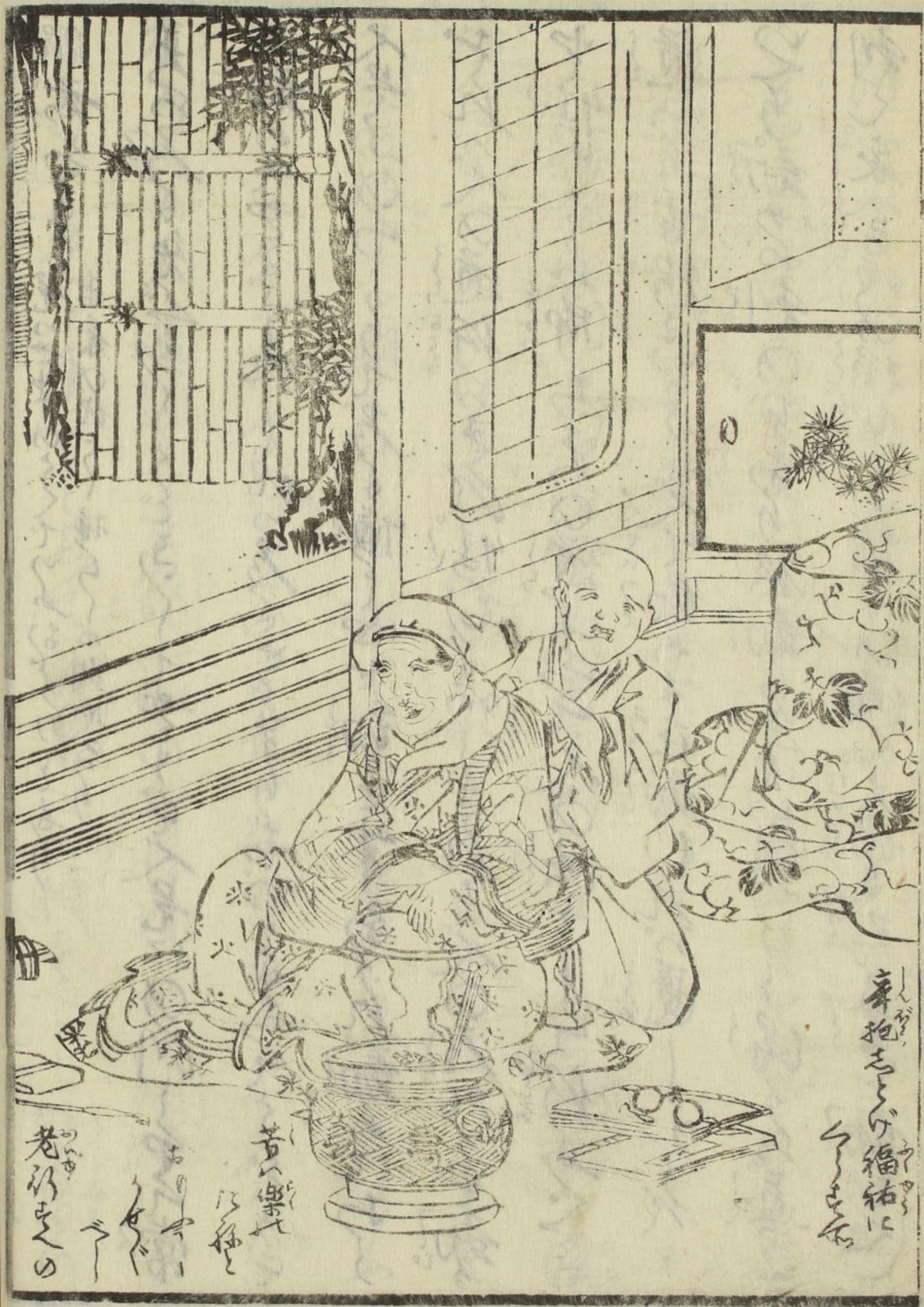
少夜の教多く。さうに睡眠を増やすに身窄くして修治
おぼしむる。さうに食消化せざらん。心持よろしく候や
あり。是より遠あへん。よく考へて

心學五者毎いふく。人へ抱くさうをかくて世居お世をわさ身
を安くそれば病起す。働けぬ血脈流れ通して病ぬ戸の
樞の老も朽さるが如し。又出難生死の業も。うあわへるど
と。是又ちひは理あるまじけ世の動免さく抱くさ
人へ中々後世の修初するとおさるべ唯にあり念仏さく
一通りの乳性にてなり難し。況やいそがし世中より隙を

ぬきんて候義寺衆の後世のいとあはれぞあるや。況や
自カ要る門の候はれおと存もすぬとあり出難き
の覺ゆ。あはれとて万代不易の名言とい世の貴
をいあむはき。随分骨をかれ。換はらて。心す人
あはれとておと存のいとあはれ人の出来とて。お
候や。浮世を移すとて。いふは働もあてん。流るる上
のてあり中。あすは老のあはれとて。いふは是はす
世の貴半をいあ。又後世の勸勉とて。人い急な
へ。一通りの貴人あはれ。貴半は當む人。是を考へ



夕べの
あけ



黄へ樂
おの
う
老の
まの

新古今和歌集
新古今和歌集
新古今和歌集

利足^{りそく} 無^む見^{けん} 尚^{なほ} さん^{さん} 遠^{とほ} 遠^{とほ} ひ^ひ して 悟^ご 畜^{しよく} して 涵^{くわん} たる 妖^{よう} 宝^{ほう} と 愚^ぐ 邪^{じゃ} しく 滅^{めつ} せざる こと 必^{かならず} 其^{その} あり 妖^{よう} 宝^{ほう} を 得^え ず 陰^{いん} 徳^{とく} と 積^つ 成^{なり} して しくり

集傳の書。十六利劄略編起。朝麻換者。つあり。され
 一。の。抄。は。も。り。て。生。の。中。の。者。も。お。換。の。ゆ。ゑ。に。成。十。六
 書。集。を。て。又。で。の。換。ト。ヤ。号。で。の。換。ト。ヤ。と。早。返。く。の。で
 たり。一。付。所。換。あ。る。や。う。に。一。人。と。し。お。付。の。ち。ひ。あ。る。利。劄。と
 是。い。ふ。紙。の。十。六。利。劄。と。名。づ。け。る。や。う。と。あり。彼。朝。麻。を。

者の教くる。丈人の家此等不整。其の如く。その事を述
 する。ふす。は。其屋のガツタリ。かぢやのチカラ。れ
 付。く。目と。覺。馬ガガアト。あ。紙。を。を。う。ひ。と。な。が
 ほ。く。付。る。火。お。が。を。が。カツ。チ。リ。ト。い。ひ。キ。ツ。カ。ケ。に。記。す。か。で
 桑。が。あ。と。合。て。知。く。か。せ。ぐ。付。其。其。は。ち。き。ある。徳。わ。く。又
 納。豆。く。は。ち。あ。く。の。ま。る。付。近。座。を。ひ。き。く。り。て。
 くら。く。夏。ふ。て。居。て。る。ま。ぶ。ふ。解。と。わ。く。ど。く。て。き。き。と
 振。く。ば。く。兔。角。朝。露。の。換。者。知。く。あ。く。起。て。う。せ。げ。く。後。
 鈴。く。馬。と。あ。り。て。朝。露。の。元。生。成。漸。度。く。知。く。く。く。

晴てあつひは朝霞の元丈に。月とをぬさせよ。サレ田町よ。
 ござる。法衣こころえさのいふ言にも。すゞ月がさあけり。ちぢおとえぢ
 新あらたむびききこころりあり。

ある。年明の女市田つれて、
月雇ひして毎回ある。ある時おくらと言ふひく。
暖とちちあへば甚だ利やわいひあふても。
のころ穢袋が所と出来あふ。若者なすひと外り。
えんあふ笑たりあひあつちうはあふさうごとく。

出ておけが。國の。の。と。後を。と。何で。と。ん。
 續て。見る。事。あり。時。方。に。彼。男。の。来。り。し。と。と。そ。
 お針。が。り。い。ひ。た。う。い。の。と。後。が。ま。て。く。あ。う。い。
 あ。ん。だ。り。の。お。と。い。せん。あ。と。う。い。の。お。ひ。切。て。げ。う。う。起。て。
 續。か。う。ふ。と。サ。世。女。の。け。に。起。て。を。朝。子。く。お。き。た。と。あ。う。更。
 う。そ。う。い。の。も。九。つ。時。分。に。起。る。若。森。と。一。た。時。の。ハ。ソ。う。七。
 つ。時。あ。ん。い。の。人。の。病。を。お。遠。く。た。る。もの。あ。ん。い。何。で。人。男。
 仲。間。あ。ん。い。病。に。あ。う。と。か。ら。ぬ。人。あり。あ。う。○。朝。子。く。て。
 病。を。お。と。し。ひ。る。病。と。起。て。居。る。男。の。居。る。方。と。は。さ。る。

やいふ人あて。おと孫房。ひる孫あて。唐紙のりばい。と
 二枚も折れたる。唐紙あて。おと。世間ふらふの。喰つて
 多し。そは穀は。う。茶と喰ふ。た。く。たり。あ
 如と。交。あ。と。い。ふ。二。百。兩。あ。て。う。う。一。年。あ。て。あ。て。
 何。う。り。入。用。と。あ。て。る。唐。紙。甚。う。り。入。用。と。あ。て。る。何。れ。い。れ。い。
 たる。あ。れ。難。く。金。と。う。け。た。る。く。で。又。喰。は。て。る。あ。て。
 望。人。子。あ。て。う。う。金。の。や。う。も。折。れ。て。居。て。あ。て。
 續。く。折。れ。て。う。う。と。い。ふ。世。と。安。く。後。に。や。う。の
 仕。方。い。れ。て。甚。う。と。せ。い。の。ま。く。に。あ。て。い。



女房あての
 う。う。れ。と
 お。う。り。と
 口。喰。う。と
 う。う。と

あれども、無くと教むに、奇妙のかるくあり、く無道
理の事とて、あらねど、ありとて、悔いあり、れ
一切朝服の衣人、告し、人より、下使男、使女、いづるまで
朝起て、すゝめ、時を、い、急度、起て、人、起され、やれ、こと
あつ、お、所、不、い、朝、服、する、人、何、ぐ、も、い、る、取、り、た、め
人、あり、用、に、ま、ぬ、人、あり、と、或、智、者、が、い、ふ、れ、い、づ、る、遠、く
あ、い、づ、れ、一、あり、拙、れ、と、い、ふ、と、い、皆、其、通、り、あり、思、れ
悔、んで、朝、早、く、起、て、い、前、ま
○朝、あ、せ、り、何、は、い、い、る、も、徳、い、ふ、病、の、起、り、用、と、い、う、せ、ば

○ち、い、く、病、て、あ、り、起、つ、の、お、き、を、と、ま、は、い、智、者、も、二、代、の、徳
業、あ、る、物、と、い、ふ、前、に
○朝、起、や、身、と、働、を、小、食、は、昨、就、ち、い、い、く、黄、い、ど、る、人
毒、あ、る、物、と、い、ふ、前、に
○碓、石、や、い、す、い、重、ね、は、い、ど、い、新、く、不、考、も、い、い、う、な、い
○え、い、や、す、い、い、ち、あ、り、起、を、仕、和、たり
○え、い、や、又、い、い、く、の、い、ど、い、い、あり
い、ち、い、の、い、得、至、て、ち、年、あり、人、の、和、い、合、も、い、て、福、徳、長
壽、の、人、と、い、ふ、い、く、先、え、り、朝、起、を、悔、い、ら、ず、後、の

已むべき事あり。又、おれはあつてせぬ人あり。是の故
に、そゝより
修業者として、身を正し、心も直さずば、主身出世の道より
いへり
と。えまの身への持致あること。又、心をとおもひ、
唯我の自然を随てす。勤むを戒の人といふ。主身出
世あること疑ひあり。やうの人と世間には有難く。また一
勤むと云ふ。戒めたる人の人たる道に立
居る。其命の吉凶禍福は天命なり。人はこれをむ
べからざる。徳行のあらまきとせむ。人々をむ
べし。人道のあらまきは法に依りて。身の上の吉凶は天命なり。

他より一是聖人智者の心よりあつていふを疑ひ
 ありき。是よりいふ。是は福長者の才あり。是
 菩薩の心よりあつて来るの急度否あるべし
 論語曰。樊遲何と問ふの曰。何ぞ難きと先ふて獲ずを
 後ふとるにといふべし。世に老く。道理至極の處に
 ありて倦むる人の生るにあり。あはれなきあり。何
 ぞいふ。何ぞ難き。苦勞なり。勇を以て進んで其とを
 能はざる。又是とは遠なる。是の福徳が来るべし
 あり。と斗り。るるあり。唯言をあり。

て以て吉凶禍福をふか。是其義と云ふに。其利
と徳と其利と云ふに。其切と云ふに。其
あて。あて。あて。是に人君子の心ひは。て。と
の人の通へ。道と。中人以下の者の世道の心ひ難と。是
見は。依て富貴安樂と。然るに。吾輩に。と。と。
あて。今日富貴安樂。然るに。人々。富貴
安樂と。然るに。依は。忠義孝行と。致さ。と。
偏るに。仁義礼と。然るに。是吾人の仲間。と。
あて。福徳。其人の物と。あて。依は。忠義孝行
に。義礼と。然るに。依は。忠義孝行と。致さ。と。

に。義礼と。然るに。依は。忠義孝行と。致さ。と。
の人は。其の稀あり。中下の人と。導くに。忠義孝行と。
其の道。至り。か。と。これ。富貴と。然るに。欲
も。入る。忠義孝行と。あて。忠義孝行と。致さ。と。
勝る。た。福徳と。然るに。欲る。入る。忠義孝行と。
孝の人道の。是。是。忠義孝行と。致さ。と。
勤め。依は。忠義孝行と。致さ。と。竹念の。忠義孝行と。
既。忠義孝行と。致さ。と。福と。忠義孝行と。
と。福と。忠義孝行と。致さ。と。即。忠義孝行と。

錢が山。しつて人なり。是る方々。道に極せり。所勝
 負附する。何れの方。至極を揚ぐ。以て考へ給ふべし。
 爲の云。止半。汲湯を評して見ゆ。あゝ。素て。錢あり。
 又。父母の。しつて。事ある。又。水。力。速。錢。あり。しつて。
 子。父の。言。を。引。き。つ。に。あ。る。べし。去。あ。る。皆。思。ふ。爲。の。
 分。判。する。其。難。さ。を。男。の。しつて。あ。せ。ら。ん。
 地。思。ひ。に。世。と。後。の。諸。職。甚。お。多。し。しつて。何。れ。の。職。
 あり。しつて。勤。て。上。る。あ。る。時。の。名。と。し。て。い。ふ。こと。何。と。
 しつて。半。途。ま。と。あり。しつて。しつて。折。捨。せ。ら。れ。ぬ。と。

一。何。れ。の。用。や。と。い。ふ。事。は。中。の。道。に。
 捨。安。く。懐。く。が。ら。あ。り。用。に。も。た。ぬ。と。い。ふ。事。情。を。そ。
 ぞ。し。て。見。え。たり。初。入。の。儀。は。入。る。べし。其。入。難。さ。を。以。て。退。き。
 くら。何。れ。の。道。成。就。さ。る。事。と。得。ん。万。半。始。め。の。十。分。を。
 ち。と。あ。抽。あ。れ。ど。も。十。年。後。思。へ。勤。け。工。吏。と。改。め。て。
 ぬ。も。た。天下。の。名。人。と。い。ふ。れ。其。名。氏。以。て。一。生。と。い。ふ。安。
 通。る。もの。なり。
 相。又。高。貴。向。の。中。の。法。法。修。ま。し。つ。如。高。人。得。る。況。玉。
 下。何。ん。高。人。の。爲。め。に。買。ひ。一。旦。の。權。形。あ。る。や。し。

唐と通じまて會欲のふり。神の和虚を以て人の
血脈と安くいふと暖まいる。是僻半にあぐさや
價を高く買ふとあふ人も暖まうとしておかしき
換とて人の用をさしてさうく僻をさすや商人
といふ所の買人があつたれば俗のあつたれば俗
は俗よりあつた。又安く買ふ利潤をさすや商人
買人といふれば其肉も暖まう。兎角棄和をさ
やまて安く買ふ。漢書に會買といふとこれに
買ふこれと云ふとあり。世に欲はくを五割の利

取者なり。五割の利潤を得欲がくをさす。五割の利と云ふ
五割の利潤は商人といふと云ふ意味。智者是を考へよ
詩經にさうく買用售をば世に賣物が久あふさうく
おろそけあらば是苦を物と云ふ。是といふものさうく物と云ふ
てさうく板の半く高ひといふ物。さうく物と云ふ
安くさく買ふ。安くさく買ふと云ふ。月然や人が
買ふ事。たうば。桃李言つてさうく。下月ら蹊と云ふ
さうく。如くいふ。桃李の花が咲く。思ふ事。下と云ふ
花の方く。おかしき。おかしき。おかしき。おかしき。

桃李不言
下自成蹊
又あて人
元の柳



卷之三

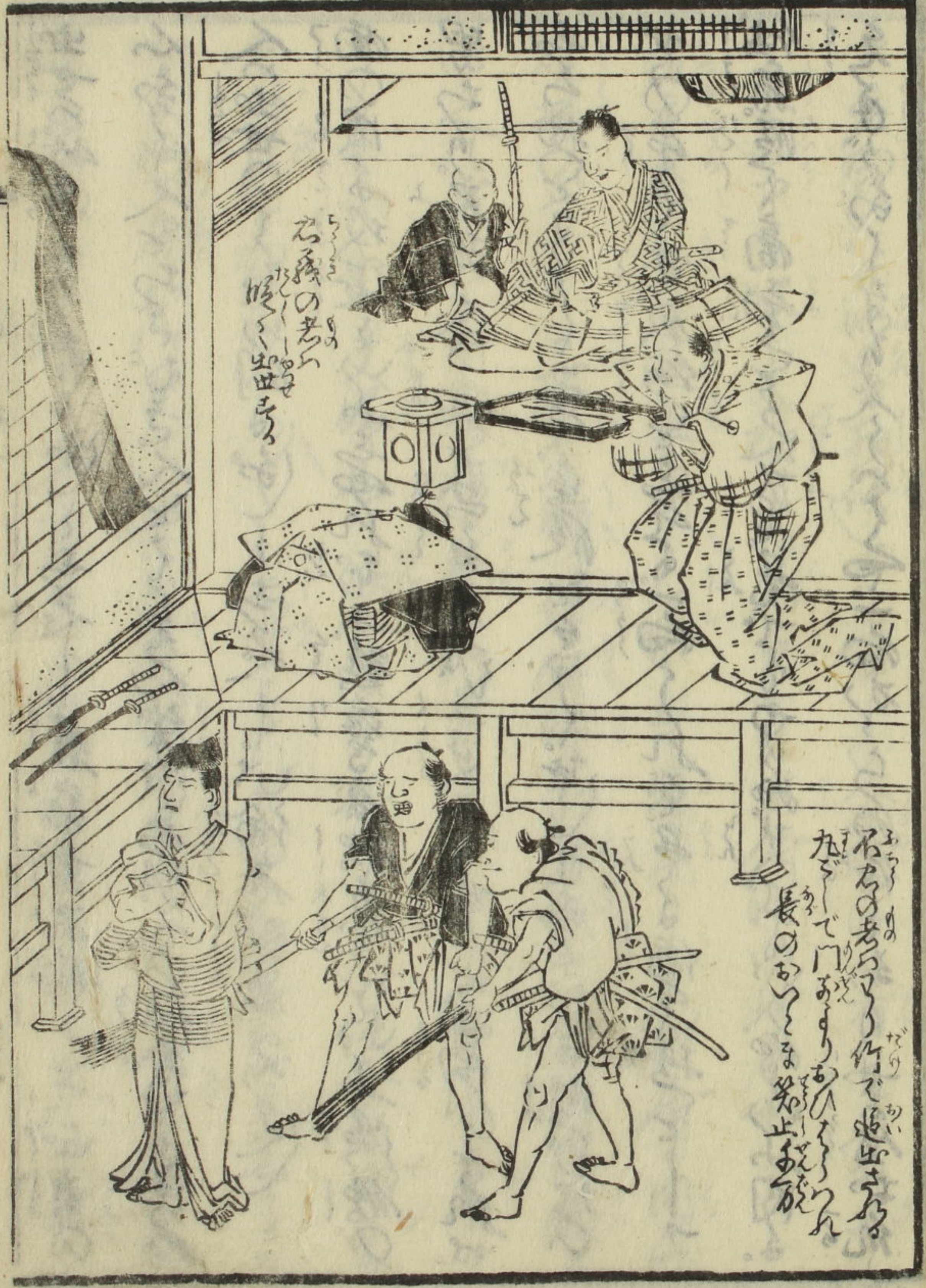
卷六

卷之六

三



不忠の人の後目にいゝと見ゆされ割竹で死なすりたる
 おもふも人の世にあらはれぬ世といふものさき屋の
 とはひて見れば初音懲悪のたゞけとある拙教多の澤と
 ひとへに思入の初文の後の威勢もいふは合のよきやあれ
 せよは家にいふやうに其難を親兄弟眷属家来よりいふ
 要すといふ人初の内いふやういふものさき屋の
 やあれどもおつしつものいふ世とて親兄弟家来よりいふ
 ち候ひ難易とていふものいふやういふものさき屋の
 系角た後考ひて世變よりいふ家来とて精よりいふ



不忠の者の後目にいゝと見ゆされ割竹で死なすりたる
 おもふも人の世にあらはれぬ世といふものさき屋の



集るや
 徳富屋
 欲する
 かひある
 こころを
 かたき
 うきめを
 あんまに
 あいさつし
 用はせられ

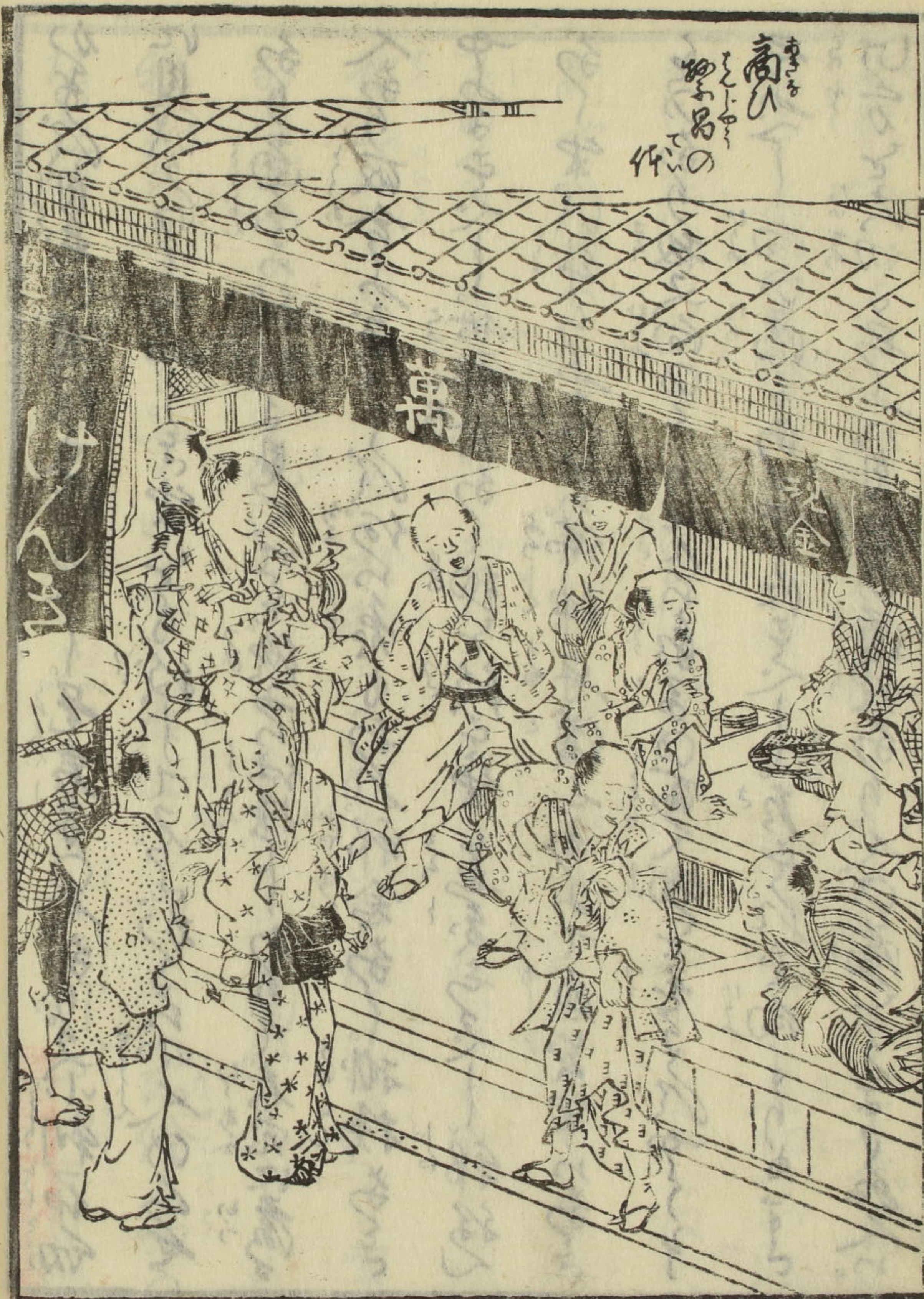
何事も人の道は通はれて。大抵義なる事あり。お役所の
 筆紙を思ふべき。西の道あり。是のうらやまのやあ
 あれ。世の中は不実者。不情者をいふ。むづかしい。奇ぬの教へ
 あり。人々考へて。移りかへる。

○もろもろの事ある人多し。おのれもあつて。あつて
 今世間の商ひの上。人々をいふ。唯終毎に。通達には。
 この世のあつて。おのれもあつて。唯終毎に。切す。まじ。
 あり。おのれもあつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 せん。五人同士。あつて。田舎者。あつて。あつて。あつて。あつて。

見世の事。目に見えて。買ふ。あつて。あつて。あつて。あつて。
 あり。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 人のこころ。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 唯。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 は。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 え。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 は。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 知。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 力。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

怪奇にあらはれ、格闘を以て是とあり。其布、又この物より
 吾魚と云ふ一葉盤にうけて是成りり。合せ、又よて虫腹
 をつけて、賣半と見、刀尺柄格闘を用ゆる正也と云ふこと
 道々、買物も正也といふ。賣物も正也といふ。昔くあるに、
 中あ利をむさわりて、刀尺柄格闘のうへ、偽りをよくし
 戒め、買物も、ちいさな物を交へ、大いなる物をとる、何しき
 物、或は後をおど。是城の商人は、わづら望人といふものあり。
 かやうの人、大商人とあるところ、河より、大商賣の存する所、
 人の破滅に及んで、不仕合の人あり。大商賣、大金持、

[illegible]



又その不実と云ふは是又自然の道理と云ふこと考へ
まじふ。然るに傍々が出来る考へ是と云ふべし。是又
人の買物と云ふに時彼是と隣に買人を待て半に至り
あかづは早く半は毎に度。是皆に大勢買人の考へ
は男のやうに買物して待てと云ふありしや至て
不了簡あり。甚やあつたりして入と取と云ふは
ふあり。人情を考へぬと云ふ考へ。他人の身にもあつては
是は早く毎に度と云ふ。中が買物と見世に買物を
考へあつたり。よく半を毎に度。買物を人をして待てぬ

又よきとて。是陰徳の了にして。商賈繁昌する者と。丈夫
 買人多く。是月然と違ふ。あるは。仕方の河をく。只ある
 とだけ。よく。各と。と。半と。是も。世と。は。より。何と
 する。故一。寸。は。最。者。と。是の。高。ひ。斗。ふ。お。く。一。切。の。あ。と。に
 又。よ。き。と。て。大。入。用。考。く。何。と。く。と。半。あり

馬喰所二丁目。柳屋宇三勝とて、年商人通が一僕あり。
二万両斗りの分限ありたる所の愛憎者甚人の云く
ある商人の利口然ある甚こは村のお換徳まから

男とくわつて勝利得が。其師先の用ひやう大半
あり是平生の半にもよりて万半は通う。士農工商
はも大入用。二更せども有るべし。道具にても前
後の用ひやうにて。大ひあるお遠のわ半く。或は音にても
師先はあれ。換徳のわ半く。是基盤基を同く。あ
れども。勝人わり負人わり。商人の同く。商人あれども
徳を人わり換する人わり。一切皆か。の如く。是も多る。
不精油取より。ある半あれ。んと責て。油取さく。べ
万半は油取され。商ふ。月より。く。後。に。あ。が

何た。と。思量。の。い。若。男。に。極。筆。紙。を。責。さ。る。か。如
く。利。己。の。欲。蓄。取。の。儲。り。を。是。に。お。遠。わ。く。べ。油。取。は
付。て。い。得。さ。半。わ。り。大。半。油。取。され。其。家。の。白。銀。隣。家
の。難。儀。を。さ。ら。れ。び。種。も。さ。り。あ。し。ま。さ。家。業。は。油。取。され
ば。子。孫。は。は。る。遠。の。あ。ん。ど。く。門。戸。の。あ。ま。り。に。油。取。すれば。盗
賊。と。す。所。の。愁。ひ。わ。り。を。家。の。前。の。道。理。あれ。た。我。子
を。は。ひ。の。考。へ。い。る。返。の。目。の。あ。る。す。ひ。を。ん。を。は。き。て。以
油。取。さ。く。は。早。竟。火。附。盗。賊。を。か。り。き。あ。る。有。り。半
あ。る。度。う。ん。内。に。は。は。る。あ。る。もの。あり。等。と。は。け。て。我。子

